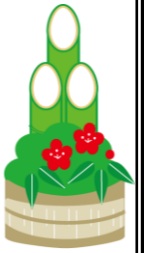




普及センター



1月



インターネットでオールカラーの記事が読めます！

いわてアグリベンチャーネット 普及センターもりおか

検索

第216号 令和8年1月23日発行
盛岡農業改良普及センター
盛岡市内丸11-1 盛岡地区合同庁舎
TEL 019-629-6725 FAX 019-629-6739

新年のごあいさつ

盛岡農業改良普及センター所長 荻内謙吾

新年あけましておめでとうございます。新しい年が皆様にとって実り多く、健やかな一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

旧年中は、当センターの普及活動をはじめ、各種研修会や実証・調査への御協力を賜り、誠にありがとうございました。農業者の皆様には、新採用職員の農家体験研修をはじめ、学生・社会人・就農希望者など多くの研修生を温かく受け入れていただき、改めて深く感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、夏の猛暑や干ばつ、豪雨などの異常気象により、生育障害や病害虫の多発が見られるなど、農業生産にとって大変厳しい一年となりました。また、米情勢においては価格高騰と高止まりが続き、需給調整や米価動向が議論される中で施策の行方が注目されましたが、出来秋には平年並みの収量と良好な品質が確保され、ひとまず安堵された方も多かったことと思います。

一方で、管内では指導士や食の匠の仲間が例年以上に増え、県内外を問わず新たに就農する仲間も多く加わりました。さらに、多くの個人や団体が表彰されるなど、明るい話題にも恵まれた一年でした。うまくいったこと、思うようにいかなかったことを含め、この一年の皆様の御尽力と歩みに思いを致し、改めて深い敬意と感謝の念を抱いております。

新しい年も、高齢化や担い手不足、物価高騰などにより、農業情勢は依然として厳しい状況が続くものと予想されます。加えて、気候変動に伴う凍霜害や猛暑、大雨、疫病、さらには野生鳥獣による農作物被害の深刻化など、多くの課題に直面しております。こうした時こそ、皆様をはじめ関係機関の皆様が、それぞれの立場を越えて手を携え、力を合わせて取り組むことの重要性が、これまで以上に高まっていると感じております。

今年の干支は十干十二支で「丙午（ひのえうま）」にあたり、エネルギーが満ち、動けば動くほど道が開ける年といわれています。この力にあやかり、皆様の日々の営みにも活力が満ち、盛岡地方の新たな農業の道が大きく開けていくことを心よりお祈り申し上げます。

普及センターでは、担い手の規模拡大に対応した省力化技術の導入や、夏季の猛暑に備えた高温対策の実証など、生産現場の課題解決と生産性向上に向けて、今年もエネルギーギッシュに取り組んでまいります。本年も変わらぬ御支援と御協力を賜りますよう、職員一同よろしくお祈り申し上げます。

新・食の匠のご紹介：菊地明美 氏（滝沢市）

滝沢市の菊地明美さんが「岩手県食の匠」※に認定され、令和7年12月18日に認定証交付式が行われました。

食の匠

氏名：菊地明美

認定料理：きりせんしょ

料理の紹介

滝沢市ではもち米やうるち米を使った料理が行事の際に食べられてきた。うるち粉を使ったきりせんしょは、桃の節句やこびる（小屋）に食べる馴染みのあるお菓子である。特に、桃の節句は「やりとり節句のもち」といって自分の家に伝わっているきりせんしょを、親戚や近所の人と交換し合い、食べ比べては味自慢に花を咲かせていた。

菊地さんは、昔は固形の黒砂糖を使っていたが、現在は二度蒸かしが不要な粉末を主に使用して作っている。



※食の匠とは：永年培われてきた地域の食文化や郷土料理等に関する知識・技術を受け継ぎ、その情報発信と次代への伝承ができる者を「食の匠」として認定し、その活動を促進することとしています。

【令和7年度 農業女子ジャンプアップ講座・優良事例現地視察研修】のご案内

女性活躍・多角的な事業展開の優良事例を学ぶ

- ◆主催：盛岡・八幡平農業改良普及センター、盛岡地方農業農村振興協議会
- ◆日時：令和8年2月18日（水） 10:30～14:00（バス移動時間を含まず）
- ◆場所：宮城県（有）伊豆沼農産（宮城県登米市迫町新田前沼 149-7）
- ◆内容：テーマ「農村を産業化する」
講師 農業生産法人 有限会社伊豆沼農産 取締役 佐藤 裕美 氏
- ◆対象：盛岡広域振興局管内の女性農業者及びその家族（夫婦参加可）、新規就農者、農産物直売施設の役員・構成員
- ◆その他：昼食代（約2千円）は各自ご負担ください。申込多数の場合は参加調整を行う場合があります

【お申込み・お問い合わせ】

地域指導課（担当：佐藤（嘉）） ☎019-629-6726（直通）